

12. 心プール SPECT による左室壁運動の評価

—第 2 報—

茜部 寛 大島 統男 佐久間貞行

(名大・放)

TI-201 心筋 SPECT において左室下壁の評価が困難といわれている。今回演者らは左室下壁病変を評価するため、心電図同期 Tc-99m 心プール SPECT を TI-201 心筋 SPECT と同時に行い、心筋梗塞 9 例(下壁梗塞 6 例)と狭心症 2 例計 11 例を対象として、左室後壁の梗塞の検出率を検討した。

心プール SPECT は sagittal, transaxial そして horizontal image を作成し、各 image の cine image を求め、phase・amplitude image とともに左室の壁運動を評価して、冠動脈造影・左室造影と比較検討した。

sensitivity・specificity は、心プール SPECT は 67%・100% で、一方心筋 SPECT は 100%・60% であり、心プール SPECT と同時に心筋 SPECT を併用することにより高い診断能が期待される。

13. デュアルエネルギー光子吸収法による腰椎骨密度の

測定：健常者の性差・年齢別での分布と骨折閾値

瀬戸 光 南部 一郎 萬葉 泰久

征矢 敏雄 渡辺 直人 亀井 哲也

二谷 立介 柿下 正雄 (富山医薬大・放)

男性 83 名 (20~74 歳)、女性 98 名 (20~78 歳) で腰椎 (L₂, L₃, L₄) の骨密度を DPA 法により測定した。男性では加齢とともに漸減してくるが、女性では 50 歳代から急激に低下した。同じ測定装置 (Norland 2600) を使用した合衆国の女性の骨密度と比較すると日本人では約 10% の低下が見られる。骨粗鬆症で脊椎骨折を認めた女性 9 名 (65~85 歳) で骨密度を測定した。平均骨密度は 0.552±0.051 g/cm² であり、骨折閾値は 0.60 g/cm² と考えられた。合衆国の女性の骨折閾値と比較すると約 10% 低値であった。

14. In-111 スキャン, Ga-67 スキャンが診断上有用であった Chloroma の一例

目崎 行雄 Caner E. Biray 中島 鉄夫

外山 貴士 松下 照雄 周藤 裕治

林 信成 小鳥 輝男 石井 靖

(福井医大・放)

われわれは、Ga シンチ、および In シンチが診断上有用であった、緑色腫を伴った慢性骨髄性白血病の一例を経験したので報告する。

本症例では、末梢血液所見、骨髄所見から原発性骨髄線維症が最も疑われていたが、Ga シンチ、In シンチを施行することによって、患者の右大腿部に腫瘤を確認した。引き続き行われた生検により幼若骨髄芽球の集簇を認め、腫瘤形成を伴う慢性骨髄性白血病と診断された。

原発性骨髄線維症は、慢性骨髄性白血病、真性多血症、本態性血小板血症とともに、骨髄増殖性症候群に属する疾患と考えられており、しばしばその末期に白血病化することが知られているが、その focus の検出には、Ga シンチ、In シンチが非常に有用であると考えられる。

15. 骨, ⁶⁷Ga スキャンにて多発性の異常集積を認めた黒色表皮腫に伴う若年性胃癌の一例

鵜飼起久子 外山 宏 竹内 昭

伊藤 清信 中村 元俊 古賀 佑彦

前田 寿登 江尻 和隆 加藤 幸彦

清水 和弥 楠原 英二 (保衛大・放)

亀井 克彦 船曳 孝彦 (同・外)

24 歳女性、主訴は吐血。入院時貧血著明で全身の皮膚に乳頭状増殖および色素沈着を伴う角質増生がみられた。上部消化管造影にて胃体部小弯側後壁に Borrmann III 型の胃癌が疑われ、胃生検にて低分化型腺癌であった。骨スキャンでは側頭骨、頸椎 Pedicle、胸骨、肋骨、腰椎椎体に、また、⁶⁷Ga スキャンでは骨スキャンの異常集積の一部と両側肺門部および腹部または後腹膜リンパ節と思われる部位への異常集積を認めた。黒色表皮腫は比較的稀で悪性腫瘍を伴う悪性型でさらに若年性胃癌を合併し核医学的に転移巣を検索した報告は調べた範囲ではない。胃癌の転移巣の検索に骨、⁶⁷Ga スキャンが有用な場合もあると思われた。